

野田村夏休み宿泊学習会・活動報告（2016年8月11日、12日）

8月11日（1日目）

本日の活動は、野田村で8月11日、12日に開かれる宿泊学習です。野田村の小学生達と弘前大学の学生が1泊2日で様々な活動を行います。野田村からは野田小学校の児童38名の参加申し込みがありました。内訳は二年生3名（女子3名）、3年生9名（男子4名、女子5名）、4年生7名（男子3名、女子4名）、5年生16名（男子8名、女子8名）、6年生4名（男子1名、女子3名）です。弘前大学からは11名（うち事務局員1名）の学生さんが参加してくれました。また、今回の活動では、弘前市のNPO法人であるスポネット弘前の鹿内葵さんに、総合コーディネーターとして活動の指揮を執って頂ける事になりました。引率の私を含めて52名での活動です。

11日の9時30分に、学生は学生会館の前に集合。事務局の竹内さんの指示のもと、ボランティアセンターから荷物を運び出します。バスは既に図書館前に到着済み。鹿内さんとも合流し出発しました。野田村への往路は弘前からの人員だけでの乗車ですので、バス車内はゆとりがありますが、野田村では満席になりそうです。

しばらく走ったところで、学生の自己紹介を行いました。今回は、李先生のゼミ生が中心です。顔見知りの学生達は既に打ち解けた雰囲気でした。

その後、竹内さんから活動についての連絡が行われます。安全への配慮としてバスの補助席に子供達を座らせない事、活動に集中する為に子供達の前でスマートフォンを取り出さない事などが重要な点でした。

11時43分に道の駅おりつめで休憩。各自、お昼ご飯を調達します。今回は、バスの中での昼食です。その後も順調にバスは進み、予定よりも早く13時ちょうどに野田村へ到着しました。野田村総合センターの2階にある大会議室へ荷物を運びこみます。学生さん達はボランティアセンターのビブスを着て、さらにガムテープにニックネームを書いて胸に貼ります。ニックネームを何にするかでお互いに話し合い、和やかな雰囲気ではありましたが、緊張が感じられました。

今回の活動では、鹿内さんが木で作った火起こしの道具を準備してくれています。子供達には部品と完成した火起こしの道具を見せ、自分達で考えて道具を作成してもらいます。さらに、用意したおがくずを使って火が起こせるかどうか挑戦してもらう予定です。学生達も試に火起こしの道具で挑戦してみるものの、なかなか難しい様子でした。

そんな事をしているうちに、リュックサックを背負った子供達が集まり始めます。学生さん達も緊張で近寄りたがたい様子。はにかむ子供達との微妙な距離感が微笑ましいです。子供達に声をかけて受付の作業へ促します。そして、その場は事務局の竹内さんに任せて、私は買い出しへ。バスの中で、鹿内さんが「明日、山歩きの時に自然を使ったビンゴをする」「そのための台紙を持ってきた」とおっしゃるので、そのための準備です。紙が留められる下敷きのようなものがあれば一番なのですが、なかなか思った通りにはいきません。考えた末に、A4の大き

さの紙が入る封筒、セロハンテープ、赤いボールペンを班の数である9つ購入。会場に戻ります。

会議室では鹿内さんが全体をまとめていました。子供達を座らせ、学生達の紹介をします。ただ紹介するだけでなく学生さんを一人ずつ「このお兄さんのやっている部活は何だと思う？」と問いかけます。スポーツ好きの子供達が多かったようで、子供達は真剣に考えていました。部活がわかれば、ポジションを聞いていきます。意外な答えには歓声が上がります。このやり取りで子供達と学生さんの距離がかなり近くなった様子がすぐにわかりました。なかなか上手いものだと感心。

その後、早速、鹿内さんの指示で体を使った活動へ。初めは、二人でペアを作ります。しかし、ペアをただ作るのではなく、出会った人同士でじゃんけんをするように指で数字を示します。もし二人の出した指の合計がちょうど7になったらペアの完成。もし足して7にならなかったら、他の人を探す。というルールです。歓声が上がります。全員のペアが完成したら、次は両手を使って、二人の合計が11になったら完成。子供達はすっかりペア作りに熱中し始めています。仲間作りはまだ終わりません。次は二人ではなく4人のグループを作ります。各自片手で数字を示して、全員で13になったら完成。難易度が上がります。

このあたりですっかり雰囲気良くなり、さらに次の課題。学生スタッフを必ず一人入れるという条件を追加。そして、グループの人数も鹿内さんが手を叩いた数に合わせなければいけません。何回も繰り返すうちに自然に学生スタッフとも打ち解けていきます。

そして最後にできた7人程度のグループで輪になって座り、次のゲーム。手拍子に合わせて一人ずつ1から番号を言って立ち上がります。しかし、立ち上がった人の隣の人は、次に立つてはいけません。隣でない人が次の番号、例えば「2」と言って立ち上がります。次は2を言った人の隣ではない人が「3」と言って立ち上がる。全員が立ち上がる事ができたら終了。簡単なようでこれがなかなかできない。一人目が「1」と言ったら、一人目の隣ではない人が「2」と言って立ち上がるのですが、「同時に二人が立ったらやり直し」になるというルールが厳しい。示し合わせる事が出来ないので阿吽の呼吸が必要です。どうしてもどこかの番号で二人以上が同時に立ち上がってしまって、やり直しを繰り返します。また、これを拍手に合わせて行うので、じっくり考えている時間がありません。拍手が早くなってくると、どんどんうまくいけなくなり、それだけでなく、これは立ったり座ったりで運動になります。良く考えられているものです。

次は、立ち上がりグループごとに輪になります。そして、「隣の人以外」と両手をつなぎます。全員が手をつなぐと、腕が絡まったようになるのですが、これを「手を離さずに一つの輪に戻す事」という指示が出ます。子供達の「えー」という戸惑う声が響き、私もちょっと無理なのではと思ってみていました。各グループは、考えながら腕をまたいだり、くぐったり、余計に絡まって笑いに包まれたりを繰り返します。最初の印象とは反対に、良く考えるとちゃんと一重の輪に戻ります。出来上がったグループからは大歓声。まるで知恵の輪がうまく外れたような感覚です。鹿内さんも「これはうまくできると、ちょっと感動しますね」と仰っています。

したが、まさにその通り、見ているだけでも「おおっ」と声が出てしまいました。子供達の満面の笑顔と歓声が素晴らしかったです。そのうえ、ちょっとしたストレッチにもなっているように感じられました。

体を動かした運動はまだ終わりません。次は、グループごとに鹿内さんが言ったものを表現します。最初は戸惑ったような反応をする子供達も、鹿内さんが「飛行機！」と言った瞬間に笑顔に変わります。各グループで考えた飛行機を作り、出来上がると採点。採点担当には私が指名されてしまいました。一つを選ぶのが大変だったのですが、乗客までうまく表現しているグループを選びました。鹿内さんは次に「じゃあ、次は遊園地！」と指示を出します。戸惑う子供達。学生さん達と一緒に知恵を絞ります。作品は、メリーゴーラウンドを模したものが多かったです。再度、一つを選ぶ事になったのですが、ゴーカートを作ったグループを選びました。大学生の上に小学生が乗って車とし、そのほかの子供達が、フェンスとゴールを作ります。なかなかのアイデアに関心しました。このゲームも、鹿内さんは「初めは想像しやすいもの。次に考えるもの」という順番にしたのだそうです。

この頃になると、グループも固まります。鹿内さんの次の指示は「各グループで自分達のグループの名前を考える」というものでした。出来上がったら、グループ名と各自の名前を紙に書くという指示が出ます。子供達はあれがいいこれがいいと盛り上がります。これも、グループ内のお互いの名前を確認し、そして名簿を作るという裏の目的がありました。以降はこのチームで行動をする事になります。

出来上がったチーム名は1班から9班まで順に「スポーツチーム」「I Love ステーキ」「チームキャラ男」「ベイマックス」「MK6」「のんちゃん」「笑顔いっぱい」「プリンちゃん」「チョコパフェ」となりました。

チームができたところで外へ移動します。このあたりで17時半を過ぎていました。グループごとにバスが停まっている農協前の駐車場へ。ここから火起こしです。子供達は完成品の火起こし機を入念に観察。段ボールの箱に入った部品を選び、製作を始めます。輪に棒を刺し、釘で固定し、棒に紐を通してうまく動くように調整します。ここで、あらかじめ開けてあった穴が少し小さく、完成した火起こし機がうまく動きません。私は見ていてどうしようかと慌ててしまい、バスのドライバーさんに「何か工具はありませんか」などと聞いてしまったりしました。鹿内さんは私が「少し穴が小さくて動かないみたいです」と言っても「ああ、そうですか」と涼しい顔。子供達を見ると、いくつかのグループが穴を広げればよいと気が付いたらしく、金づちに付いているくぎ抜き部分や手ごろな大きさの石を探してきて、作業を始めていました。そして、うまく動くようになった火起こし機で火起こしを開始。他のグループもそれを見て真似を始めます。困った事が有っても子供達を見守ればよかったと反省しました。

火起こし作業になると、子供達は一心に火起こし機を動かします。初めはうまく動かせなかった子供達もすぐにコツをつかみ、あちこちから煙と一緒に歓声が沸きます。この火起こしはとても楽しかったようで、いくつかの班では下に置いていた板に穴が開いてしまうまでひたすら火起こしをしていました。

そうこうするうちに、少しずつ日も落ちてきます。班ごとに分かれて Light up Nippon の会場へ向かいました。ここでは、100 円が 1 ドーン（花火が行われるから？）となる引換券を使って買い物をします。会場ではたくさんの店が並び、おいしそうなものが売られていました。今日の夕食はこの屋台でとる事になります。人手もたいへん多く、会場を歩き店の前に並ぶのも一苦勞と言った感じです。

すっかり日も暮れたところで、盛大に花火が始まります。私は屋台で購入した焼きそばと焼き肉を食べながら花火を見学しました。まさに夏の夜といった趣で、きれいな花火を眺めていましたが、その一方で、子供達と一緒にこうしていただける幸せも感じていました。花火を見ながら様々な想いを馳せている方も多かったはずですが、今後も野田村の復興が進む事を念じてやみません。

花火が終わるとそれを合図に集合の時間となります。学生さん達を中心に、ぞくぞくと総合センターの前に子供達が集まります。予定表では 9 時まで会場で楽しむ予定でしたが、私と鹿内さんの判断で花火が終わったら集合して、宿泊先のえぼし荘へ向かう事としました。明日に備えて、子供達には早めに休んで欲しかったからです。また、子供達を寝かせるまでが一苦勞となる事が分かっていたからでもあります。

全員が集合すると、人数を確認してバスに移動。まず子供達を座席に座らせて、その後に学生達が乗り込みます。えぼし荘到着後は玄関前に班ごとに整列。部屋についての指示を伝えて、班ごとに順番にえぼし荘に入ります。今回は 1 階の広間に男子、3 階の鍵のかかる部屋に女子を割り振り、ここから別行動です。学生さん達にお風呂の指示を出し、あとは彼らを信頼して任せます。9 時半頃に確認してみると、男子はお風呂も済ませて、部屋でくつろいでいました。学生さん達に聞くと、素直に順番にお風呂に入ってくれたそうです。女子はもう少し時間がかかったようですが、これで長い一日が終わります。楽しい一日でした。

8月12日（2日目）

二日目は朝 6 時に起床、6 時半に玄関前に集合です。男子の寝ていた広間で朝ご飯を食べる事になるので、男子は忙しい朝になります。起床後、布団を片付け、部屋に朝食用の長テーブルを並べておかなければいけません。見に行くと起きられない子もおらず、作業もちゃんとできていて偉かったです。

6 時半から駐車場でラジオ体操。そのあと鹿内さんがいくつか運動のメニューを示します。早朝ですが、子供達はとても元気。全員、体調にも問題がなさそうで安心しました。

ラジオ体操の後は朝食です。おにぎり定食を食堂で受け取り、広間のテーブルに並べます。麦茶のペットボトルを配り、声を合わせて「いただきます」と言ってから朝ごはんです。2 年生から 6 年生、男子と女子と一緒に朝ごはんですので、食事の速度に違いがあります。でも、早く食べ終わった子供が騒ぐ事もなく、食後のゴミもちゃんと分別して朝食がおわります。次の集合は 8 時。朝は忙しいです。

8 時に玄関前に集合して、本日の散策で道案内をして頂く貫牛さんの注意を聞きます。

今日のプログラム名は「野田村の魅力再発見プログラム」です。えぼし荘から野田中学校、チーム北リアスの事務所まで、12.2kmの道を歩きます。コースは、舗装された一本道。不測の事態への対処の為にバスにも並走して頂き、駐車可能な場所で常に待機してもらう事にしました。

各班には、鹿内さんが作成したシートとボールペンを配ります。このシートには、「川の音」「触ったら痛そうな葉っぱ」「こけ」など、山道で出会ういろいろなものがイラスト付きで配置されていて、見たもの聞いたものをチェックする事によりビンゴゲームのように遊べるようになっています。子供達は早速シートを眺めながら道の周りを見回していました。

幸いな事に晴天に恵まれ、楽しく山道を歩きます。途中、根井公民館、平谷観光農園で休息をとりました。平谷観光農園では、冷たいジュースが用意されており、夏の日差しの中で山歩きをする私達には、たいへんありがたかったです。ありがとうございました。

山歩きの後は、楽しいバーベキュー。北リアスの事務所でおにぎり、肉、野菜、ホタテ、焼きそばと贅沢な食事になりました。学生さん達が準備と火起こし、調理を行い、子供達はおいしそうにそれらを食べていました。たくさん運動した後なので、いつもよりもおいしく食べられたのではないかと思います。そして楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。慌てて、棒パン作りの作業に入りました。事務所内で学生さん達が生地を作り、子供達が竹竿にアルミホイル巻き、そこに生地を巻きつけていきます。既に経験のある子供が多かったようで、皆、上手に生地を巻きつけ、バーベキューで使った炭火でパンを焼きます。ただ、少し棒パン作りの開始時間が遅れたせいもあり、ちょっと慌ただしくなっていました。

14時が近づいてきます。子供達をバスに乗せ、片付けを行う学生が事務所に残ります。事務局の竹内さんが中心になり、最後の点呼です。鹿内さん、事務局の竹内さん、私の3人がバスに乗り、総合センターの前まで子供達を送ります。バスに乗った子供達に手を振って、学生さん達とはここでお別れです。

総合センターの前でもう一度班ごとに並んで、お世話になった運転手さんにみんなでお礼をします。これで、宿泊学習も終了です。子供達は保護者の方と一緒に車に乗ったり、一人で歩いたりして岐路に着きます。何とか無事に終える事が出来てほっとしました。

その後、もう一度、北リアスの事務所に戻ります。学生さん達と最後の片づけを行い、我々も出発です。往路と同じようにバスに乗り、弘前へ向かいます。まず、ばあぶるで休憩。ここで、鹿内さんが全員にソフトクリームを振る舞ってくれました。ありがとうございました。

朝からの長い一日と子供達を預かる事の責任で学生さん達も疲れていたようです。復路のバスでは、おしゃべりもなく皆、ぐっすり眠っていました。途中、休憩もあったのですが、私がバスに戻り「全員、揃っているかな？」と声をかけても返事がありません。運転手さんが「誰も降りていませんよ」と笑いながら教えてくれました。

無事に弘前大学に到着し、荷物を降ろします。運転手さんにお礼を言って、荷物を再度、ボランティアセンターへ。長い二日間が終わりました。

今回の活動では、道案内をお願いした貫牛さん、スポネット弘前の鹿内さん、事務局の竹内さん、参加の学生さん達にお世話になりました。貫牛さんには、ルートの設定からたいへんお世話になりました。鹿内さんが子供の前で見せるリーダーシップには、感心する事が多かったです。また、活動内容をしっかり把握し、二日間を支えた事務局の竹内さん、元気すぎる子供達に手を焼きながらも良きお兄さんお姉さんとして子供達を見守ってくれた学生さん達はとても頼もしかったです。そして、見ているだけで元気になるような笑顔を絶やさずに、この活動に参加してくれた子供達に感謝します。また機会がありましたら、是非、お会いしたいと思っています。